

## クリアスイとアルコールとの比較

	クリアスイ(次亜塩素酸水)	アルコール
<b>効果</b>	濃度により様々な効果が期待できる。	水を使う場所での効果は薄い。
<b>適応微生物の範囲</b>	全ての大腸菌群(黄色ブドウ球菌、O-157 など)、ウイルス(ノロウイルス、インフルエンザなど)、糸状菌、MRSA、カビ菌、緑膿菌、白癬菌に対して広範囲に除菌効果がある。	使用量により大腸菌類を除菌できるがウイルスやカビ菌、緑膿菌、白癬菌などに対しては効果が見えない。
<b>除菌時間</b>	濃度により5秒から数分以内	瞬間的に表面の殺菌が可能(80°)
<b>使用濃度</b>	用途により20ppm～400ppm	アルコール濃度80°との比較
<b>pH</b>	弱酸性(肌が荒れない)	中性(乾燥により肌が荒れる)
<b>腐食性</b>	使用濃度によるが水と同等。	殆ど無視できる。
<b>毒性</b>	殆ど無視できる。	殆ど無視できるが、人体に対して皮膚刺激が見られる場合がある。
<b>生物分解性</b>	製品自体および副生成物共に高い生物分解性を顕す	使用濃度によるが、程々に高くなる
<b>適用</b>	酸化防止用途:飲料水の鮮度保持・腐敗防止・廃水の除菌・消臭	乾燥面の表面用殺菌剤。
<b>コスト</b>	比較的安価	比較的高価
<b>洗浄効果</b>	水と同等なので洗浄効果は無い。	バイオフィルムに浸透する能力を示すが、洗浄効果は無い。

# クリアスイとアルコールとの比較

	クリアスイ(次亜塩素酸水)	アルコール
効果	高い水準	基本的に水環境下で効果は薄い。
適応微生物の範囲	芽胞形成菌を含んだ全ての大腸菌(O-157など)、バクテリア、ウイルス(ノロウイルス、インフルエンザなど)、糸状菌、MRSA、カビ、藻類に対して広範囲に効果がある。	使用量により大腸菌類を除菌できるが糸状菌や芽胞形成菌などに対しては効果が見えない。
除菌時間	15秒から数分以内	数分以上でも疑問
使用濃度	用途により 20ppm～400ppm	アルコール分 75～85%程度
pH	弱酸性(肌が荒れない)	中性(乾燥により肌が荒れる)
腐食性	使用濃度によるが水と同等。	殆ど無視できる。
毒性	殆ど無視できる。	殆ど無視できるが、人体に対して皮膚刺激が見られる場合がある。
生物分解性	製品自体および副生成物共に高い生物分解性を顕す	使用濃度によるが、程々に高くなる
適用ほか	飲料水および廃水の消臭・消毒用として使用可能。	乾燥面の表面用殺菌剤として使用される。
コスト	比較的安価	比較的高価
洗浄効果	水と同等なので特に無い。	バイオフィルムに浸透する能力を示すが、他は無い。

